

## 防衛大学校本科第4期及び理工学研究科第35期学生 卒業式における学校長式辞（平成10年3月22日）

防衛大学校本科第4期及び理工学研究科第35期の学生諸君は、本日をもって所定の全課程を終了し、4年及び2年にわたる小原台生活に別れを告げることになりました。この間、防衛大学校における学生生活の中で、諸君が自らの青春を燃焼し、幾多の収穫と思い出を持って巣立って行かれるそのことに対して、私は、本校の教職員、指導教官一同とともに、心からお祝いを申し上げます。

本日のこの栄えある式典に、国務御多端の折りにもかかわらず、御臨席を賜りました橋本内閣総理大臣<sup>注(1)</sup>、伊藤衆議院議長<sup>注(2)</sup>、斎藤参議院議長<sup>注(3)</sup>、久間防衛庁長官<sup>注(4)</sup>をはじめ国会議員各位、また樋口廣太郎氏<sup>注(5)</sup>、田中学位授与機構長<sup>注(6)</sup>をはじめ内外多数の来賓各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

また、卒業に至るまでの間、防衛庁自衛隊の関係者各位、官民の諸機関並びに在日米軍、各国大使館等から寄せられた御指導・御協力に対しても、併せて厚くお礼申し上げる次第であります。

更にまた、遠路をも顧みず本式典に御参列賜りました御両親・御家族の皆様方に対しましては、今日までの御協力に深く感謝申し上げますとともに、立派に成長された御子女の卒業を心からお祝いするものであります。



第6代学校長 松本 三郎

---

注(1) 橋本龍太郎

注(2) 伊藤宗一郎

注(3) 斎藤十朗

注(4) 久間章生

注(5) アサヒビール社長、防衛問題懇談会座長

注(6) 田中郁三

さて、417名の本科卒業生諸君 - この中には30名の女子学生が含まれていますが- 顧みれば平成6年の春4月、諸君は希望と緊張感に胸を震わせながら、桜花爛漫のここ小原台の坂を登った日のことを覚えていることでしょう。また入校後もしばらくは、慣れない学生舎生活や規律ある生活に戸惑い、将来幹部自衛官として、その生涯を防衛の職務に捧げようという決意に若干の不安を感じたことでしょう。しかし、それからの4年間、「模倣実践、切磋琢磨、自主自律、率先垂範」を各学年の合言葉に、厳しい団体生活の中で勉学や訓練に励み、幾多の苦しい障害を乗り越え、試練に耐え、諸君は大きく逞しく成長しました。かくして、幹部自衛官となるべき決意と資質は揺るぎないものとなり、今や胸を張って堂々と卒業していく諸君を、私は自信を持って送り出すことができます。

タイ王国5名、シンガポール共和国3名、マレーシア2名の留学生諸君に対しましても、心から祝福を贈るものであります。異なる文化の下で、日本の友人と寝食を共にしつつ学んだこの貴重な経験は、必ずや将来諸君が誇り得る豊かな財産になるでありましょう。諸君のそれぞれの母国に帰ってからの大きな活躍を期待しています。

さて卒業生諸君は、これから陸・海・空それぞれの幹部候補生学校において、初級幹部としての専門教育を受けるわけですが、諸君の幹部自衛官としての修業は、まさにこれからが本番であります。

自衛隊の創立者であり、本校生みの親でもある吉田元首相は、防衛大学第1期生の卒業生祝辞で、

独立国の国民として国の独立程大事なものはなく、この独立を守ることこそ、国民としての名誉であり、誇りであり、この誇りが愛国心の基礎をなすものである。国民に独立を愛し、独立を守る決心なくんばその国の存在はあり得ない。この決心が一国の興隆繁栄を来たすのである

と述べておられます。諸君は、こうした国民の負託にこたえ、身を挺してわが国の独立と国民の生命財産を守ることに、その生涯を捧げる名誉と誇りを担っています。卒業を機に、決意を更に新たにし、今後一層の精進に努められることを期待しています。

諸君が入校以来しばしば耳にしてきたように、本校における教育目的の根幹をなすものは、「真の紳士淑女にして、真の武人」を育成することにあります。このことは、自衛官としての確固たる使命感を自覚し、防衛の専門分野での知識・技能・体力を修練すべきことはもちろん、一

社会人として、幅広い教養と豊かな人間性を併せ持つべきことを意味します。防衛大学校の教育は、単に視野の狭い、特殊な戦争技術者の養成を意図したものではなく、広く国家社会の一員として、与えられたその職責を全うし得る指導者としての資質の涵養を目的としていることは論を待ちません。第1期生以来1万8千人に達する諸君の先輩達は、こうした防衛大学校における教育の成果を、一旦緩急に備えての日常の地道な勤務訓練の中で、更にPKO活動や様々な災害の救援活動等の中で、黙々たる内にも見事に発揮してくれております。国民に信頼される、また国際社会に信頼される自衛隊の道を一步一步着実に築いてきてくれたといえましょう。

こうした先輩達の業績を受け継いで、これから諸君の活躍する21世紀の世界は、あらゆる意味で複雑化、多様化が進み、内外の情勢は益々不透明で予測し難くなることは必至です。そこでは、いかなる任務に就くにせよ、広い視野と高い視点に立った創造的で柔軟な思考力と的確な判断力、そして豊かな国際感覚が求められます。新しい防衛計画の大綱が成立し、これをふまえた中期防衛力整備計画が発足して間もない、大きな節目に卒業を迎えた諸君に対して、幹部自衛官としての誇り高い任務を全うすべく、不断の研鑽と、気品に満ちた「一人間としての修業」を怠らぬよう強く望む次第であります。

次に、理工学研究科65名の卒業生諸君 - この中にはタイ王国からの留学生1名が含まれていますが - 諸君に対し一言申し述べます。諸君は、理工学に関する大学院レベルの専門的知識と技能を修得し、研究すべく2年の歳月を本校で過ごしました。この間、頭脳の充電を図り、将来への大きな飛躍の基盤を培う貴重な体験を積んだのであります。先週本校で開催された第3回国際防衛学セミナーの主題は「自然科学、工学、軍事技術の発達と21世紀の士官教育」でありました。このことからもうかがえるように、最近の科学技術の著しい進歩は、軍事面においても装備の高性能化、複雑化などの質的变化を生み、軍事戦略及び戦術に大きな変革をもたらしていることは周知の事実であります。今後諸君は、それぞれ新しい任務に就かれることとなりますが、広い視野に立って一層の研鑽に努められ、益々重要になりつつある自衛隊の科学技術分野における発展向上に尽力されるよう、切望するものであります。

さて、諸君の小原台生活の幕は、今まさに閉じられようとしています。これから先、諸君のあとに続く後輩達の模範となるよう、いかなる部署、いかなる境涯にあっても、学生綱領の謳う「廉恥、真勇、礼節」を座右